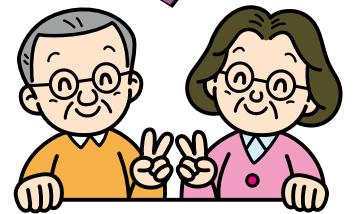


シルバー人材センター

会員の声



悔いの無い人生を

シルバーと共に!!



(社)薩摩川内市シルバー人材センター

有村 次男

私がシルバー人材センターを知ったのは、平成十六年の六月に緑地管理講習を受講したのがきっかけで、剪定班の会員となった。最初は基本的に分かっていても、実際現場に出てみたが思うように行かず、一年目の夏は特に厳しかったが、先輩方から作業手順方法を分かりやすく、時には厳しく指導して頂き、また休憩時間等には世間話をしてもらい、気持ちの切り替えが出来るようになった。

前職は室内の仕事が主だったが、剪定作業をして行くうちに木々の型作りに自分自身も一段と興味が出てくる様になり、二年目からは楽しく出来る様になった。お客様も学校開

係、市の公園及び個人と色々な人との交流で今迄にない世界が広がった。

平成十九年四月より理事の任命を受け、一年目は無我夢中だった。他のシルバー人材センターの先進地研修等を通じて良い勉強となった。それから一段とシルバーの基本、「自主・自立」を基盤とする理事会はシルバー事業を運営する中で最も重要な機関であることを理解し、自主運営をより効果的に推進する為に平成二十二年四月一日より剪定班四班制を立ち上げた。従来は剪定日から全て事務局で決めていたが、「自主・自立」の観点から各班長が見るから仕事の担当者迄決めて、指示を

する事で、会員の意識向上を図ると共に「来た時よりも美しく」と造園技術専門校の先生から折に触れ言われた言葉をかみしめて常に実践している。庭仕事は千変万化。その時々場所で作業内容は変化する。剪定作業はもちろん、創意工夫の積み重ねで実にやりがいがある。シルバー人材センターでその仕事の出来る機会を与えてもらっている事は実在りがない。作業終了後の庭をお客様に「わあーきれいなった」と喜んでもらえる瞬間は苦労が吹っ飛ばほど嬉しい。

人間年を重ねるのは皆一緒でも考え方個人差が出てくる。意識の改革、発想の転換こそ重要で、就業も仕事と思わず、頑張っていると思わず、楽しんでやるのだと思っていると気分的に楽になり元気が出る。私自身最近しきりに感じる事がある。それは何か？ シルバー人材センターで働いている会員の方々は、ともかくにも頑健である事だ。剪定、草取り、刈払いなど多くの仕事に携わっている。それで七十〜八十年間オーバーホール無しで働き続けている会員の多い事に頭が下がる思いである。遅く生活力を持って成長するには、人生は試行錯誤の連続

であり、自分を磨くのは、自分であって他人ではない。しかし躰きも多く紆余曲折もあつたはず。新たにスキルを身に付けようとする、若者には絶対に勝てない。しかし我々シニア組は経験によって鍛えられた豊富な蓄積がある。中でも仕事为天職と思えるスペシャリストは以前とは条件が違うであろうが、いつでも働く事ができる。ここに大きな意義があり、遅い人づくりがなされていると思う。

一方最近、どこでも目にはいる光景がある。それは高齢者福祉施設が増加である。我々が長寿の世界に突き進んでいる中、ある施設で見た高齢者の姿はすなわち明日か何年後かと思うと悲痛である。こうした事態は避け難くやってくる。願わくは元気のままで、ある日突然病が来ても、遅しさを忘れず、たとえ明日我が身に何が起ころうとも悔いの無い人生をシルバー人材センターと共に歩いて行きたい。



地域と交流しながら 元気に活動

(社)鹿児島市シルバー人材センター

松元 勇

シルバー会員になって約二年がたちました。会社勤めを辞めて退職後の仕事のめどが立たない中で、シルバー人材センターの存在を知り不安の中で入会しました。

センターからの多種多様な仕事の紹介と、先輩方からは親切な指導及びアドバイスを頂き、なんとか無事に仕事をこなしてまいりました。どの仕事も奥が深く日々勉強だと思っています。センターの安全講習、旅行等での安全教育を受けて、無事故で作業できたことは何よりも良かったと思います。作業の休憩時間にも、先輩方から安全作業・仕事の進め方等を親切に教えて貰いました。事務の仕事とは違って体を思いきり動かし、規則正しい生活リズムで、前よりも随分体調も良くなり元気になりました。

おられます。農家の方が多く、野菜の作り方なども教えて貰っております。今まで地域で働くことがなかったので知らないことはばかりでしたが、地元のこと少しは解ってきたような気がします。客先は高齢者のお宅が多いので言葉づかいや、気配りに注意し、今後また注文が来るようにと思いい対処しています。

- ① 体調が良くなり元気になった
 - ② 地域との交流ができた
 - ③ いろいろな仕事ができるようになった
 - ④ 農業その他の勉強ができた
 - ⑤ 客先との交流等
- 体があり満足しております。体が元気な限りシルバー人材センターにお世話になりたいと思います。

南 日 本 新 聞

(平成22年7月19日掲載)



研さん積んで

旅行に一役

先日、横浜市の中学生の観光ガイドを、鹿児島市シルバー人材センター観光ガイドの会の会員24人で引き受けた。班別に鶴丸城跡や維新ふるさと館などのポイントを案内し、子どもたちと語った。かごしま弁を教えたり、茶わんむしの歌を歌ったり、手作りの小物をお土産にわたしたり、写真を撮って後日送ったりとそれぞれがもてなした。

横浜市では、4年前から飛行機での修学旅行が許可されて、この学校では3年間、長崎に行ったのとこの。そして今年初めて鹿児島へ。

旅行の主目的は「かけがえのない命の大切さを伝えよう」として頑張っている人々、命を守るために頑張っている人に出会う旅、環境・仕事・平和・生き方などを通じて「人との豊かなかわり体験的な活動」であった。私はこの真摯な教育的目的に感動した。

観光ガイドの会会員

徳田 隆士 (69)

(鹿児島市)